

**製品名: BRG1 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe87742**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:2000-1:20000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:200-1:500,FC 1:100-1:200,IP 1:10-1:100
分子量	Calculated MW:185 kDa; Observed MW:220 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	BRG1
別名	Brg1; SW1/SNF; HP1-BP72; SNF2beta; b2b692Clo; b2b508.1Clo
遺伝子 ID	20586
SwissProt ID	Q3TKT4
免疫原	マウス BRG1 の合成ペプチド

**背景**

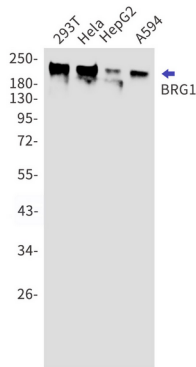
核ホルモン受容体と協調して転写活性化を促進する転写共役因子。カルシウム依存性の抑制因子複合体の放出と活性化因子複合体の

リクルートメントを調整することでプロモーター活性化を制御する多タンパク質複合体である CREST-BRG1 複合体の構成要素。休止期ニューロンでは、c-FOS プロモーターの転写は、BRG1 依存性のリン酸化 RB1-HDAC 抑制因子複合体のリクルートメントによって阻害される。カルシウム流入により、RB1 はカルシニューリンによって脱リン酸化され、抑制因子複合体の放出につながる。同時に、CREST 依存性メカニズムによってプロモーターへの CREBBP のリクルートメントが増加し、転写活性化につながる。CREST-BRG1 複合体は NR2B プロモーターにも結合し、活性依存的な NR2B 発現の誘導には HDAC1 の放出と CREBBP のリクルートメントが関与する（類似性による）。

## 研究分野

-

## 画像データ



BRG1 抗体（1:1000 希釈）を使用した 293T、HeLa、HepG2、A594 細胞溶解物中の BRG1 のウエスタンブロット検出。